

区長記者会見 質疑要旨

日時	平成 30 年 12 月 18 日(火) 午後 2 時 00 分～3 時 00 分
出席者	区長、豊島区観光協会会長、ORIGINAL Inc. 代表取締役、政策経営部長、企画課長、文化観光課参事、国際アート・カルチャー都市推進室長、広報課長 朝日新聞社、NHK(首都圏放送センター)、建通新聞社、産経新聞社、(株)創発としま、タウン誌「すがも」、(株)都政新報、日刊工業新聞社、読売新聞社、(9社)
司会	広報課長
案件	「豊島区・観光協会・タイムアウト東京との協定締結」について 第一部:協定締結式(協定書署名) 第二部:記者会見

区長ほか	「豊島区・観光協会・タイムアウト東京との協定締結」について説明
質疑応答	
記者	① 大塚の情報発信方法とは具体的にどのように行うのか。 ② 外国人の目線で、大塚の魅力はどこにあるか。
国際アート・カルチャー都市推進室長	① 英語と繁体字でネットやトリップアドバイザーの協力を得て大塚地域を発信していく。観光案内所等も方法の一つ。
ORIGINAL Inc. 代表取締役	① プロモーションに関しては、タイムアウトとしても英語と繁体字のガイドマップ作成などで協力をしていく。「OTSUKA AFTER DARK」は、大塚で日が暮れてから楽しめる、そこでしかできない体験を 20 件紹介するガイドマップを発行。クーポンを購入して「体験」を販売する。また、台北で若者に人気のある「haveAnice」と提携して大塚の取り組みを紹介してもらう。 ② 暮らすように旅したい、というニーズが外国人の間で高まっている。例えば新宿のゴールデン街や渋谷の横丁など。路地を歩いて見つけた店に入る、という観光のしかたが外国人に今求められている。大塚は外国人のニーズにぴったり合っている。
区長	② 大塚の街は急激に変わってきている。若い方がまちおこしをやっていて、24 時間やっている店も増えてきた。今一番注目の街。
記者	① 豊島区以外の自治体と協定を結んでいるか。 ② 区とはガイドマップ作成で協力しているということか。 ③ 豊島区が魅力的なコンテンツである理由と改善点はどこか。
ORIGINAL Inc. 代表取締役	① 初めて。全国でも初めて。 ② その通り。 ③ 大型開発が進んでいる都市型の都市としての魅力と、古くからの個人商店が残っている。大塚は、個性的な店を発見できるのが観光客の視点で見ると魅力的。それと大都市にきたという感覚を同時に味わえる。また、アニメイトに 1 日 2 万人の来客数といった数字を発表する自治体はない。そのくらいアート・カルチャーコンテンツなどのソフトが

	<p>都市の欠かせない魅力として成り立っている。そこも魅力的。アニメイトも本当にアニメ好きな外国人は、池袋の本店に来る。アート・カルチャーのメッカとしての豊島区をさらにアピールすると世界で話題になる。</p> <p>安心安全も取り組んでいるので、その点は心配していない。多言語対応はこれからやっていかなければいけない。大塚はあまりにも安すぎる。せっかくたくさん来てくれるのであれば、価格設定も検討するほうがよい。</p>
記者	<p>① 観光マップも3者連携で作成しているのか。</p> <p>② 部数は。</p>
文化観光課参事	<p>① タイムアウトと協力して作成している。</p> <p>② 英語：27年度に5万部、28年度10万部増刷 繁体字：29年度10万部 簡体字：30年度5万部作成中 韓国語：30年度5万部作成中</p>
記者	<p>① インフォメーションと情報提供が現状の課題ということか。</p> <p>② 世界への発信力を強化したいということだが、池袋のガイドマップを他国で配布するなど検討しているのか。</p>
文化観光課参事	<p>① 来年、池袋西口公園の中にインフォメーションカフェを作る予定。また、Hareza 池袋の中の区民センターにもインフォメーションセンターが完成する。インフォメーションセンターはORIGINAL Inc. 代表取締役のアドバイスをいただく。日本政府観光局（JNTO）が認証する観光案内所のカテゴリは1～3までであるが、英語+αの言語を話せる人を配置し、多言語にしっかり対応していく。インフォメーションロボットの導入なども検討していきたい。</p> <p>② 冊子も作るがネットで配信していくように考えている。</p>
ORIGINAL Inc. 代表取締役	<p>② 海外でも配布するのはよいと思う。台北でガイドマップを置いてくれるカフェで繁体字マップを配布している。12月頭には、台湾でカフェカルチャー&アートブックの大きなイベントがあり、タイムアウトのブースでガイドマップを置いたらすぐなくなった。区に今後、同様イベントの際に配布を提案していきたい。</p>
国際アート・カルチャー 一都市推進室長	<p>② ジャパンコンテンツショーケースという日本の映像コンテンツを海外に売り出すイベントが毎年10月末に開催されており、豊島区もブースを出展し、ガイドマップを配布した。また、インドネシアやパリの見本市など、自治体としても機会を捉えてガイドマップを配信していくことを予定している。</p>